

学校自慢

「可能性は無限大」

～主体的に取り組む生徒を目指して～

流山市立常盤松中学校長 菊岡 義一



1 はじめに

流山市では「学力・気力・体力」を三つの柱とし、自立できる児童生徒の育成に努めている。本校も教育目標を「可能性は無限大」と定め、校訓「全力投球」を念頭におき、生徒が主体的に取り組む姿を常に目標として教育実践を進めている。

本校の学区は、かつては東武野田線初石駅周辺の住宅地が中心だったが、平成17年につくばエクスプレスの開通により、首都圏のベッドタウンとして新しい住民が急増している。創立58年目を迎え、学級数13、全校生徒389名である。

2 特色ある教育活動

(1) 生徒のための授業づくり

平成30年度・令和元年度流山市教育委員会から研究指定を受け、『生徒が意欲的・主体的に学ぶ授業づくり』～効果的なグループ学習の活用を通して～を主題として研究に取り組んでいる。グループ学習の授業デザインは「活動的な学び」「協同的な学び」「表現的な学び」が相互に関連し合い、主体的で深い学びへとつながる。グループ学習をどのような場面、どのタイミングで実施するのがより効果的かを議論し、研修を重ねた。

その結果、生徒が生き生きと学びに参加する姿が各教科・各学級で見られるようになり、「みんなで授業をつくっていく」「自分の考えをグループ内やクラスで発表し仲間と共有できる」「お互いに教え合える」活気あふれる授業が日常の光景となってきた。

(2) オリンピック・パラリンピック教育

平成29年度から令和元年度までの3年間、県教育委員会からオリンピック・パラリンピ

ック教育推進校の指定を受け、以下四つの方針を中心に様々な活動に取り組んでいる。

①「おもてなし」一人一鉢花いっぱい運動。

②「心のバリアフリー」パラスポーツ体験。

日本代表コーチ村上氏による講演とボッチャ体験。日本代表選手2名による講演と車椅子バスケットボール体験。

③「スポーツ」オリンピックアンから学ぶ。

山口美咲選手（水泳競技）、勅使川原郁恵選手（スケート・ショートトラック）、山本隆弘選手（バレーボール）による講演と体験。

④「グローバル」各国の歴史や文化について調べ、発表し交流する。流山市ホストタウンであるオランダの方々との交流。



体験や講演などを通して、スポーツの楽しさや感動を分かち合い、主体的な学びを深めた。次年度はパラリンピック競技のシッティングバレーの観戦に全校生徒で行く予定になっている。

3 おわりに

生徒一人一人が自分の可能性を信じ、将来の夢を語り合えるような学校づくりを目指している。そのために学校・家庭・地域が連携し、生徒のために力を合わせて教育活動に取り組んでいる。